

## 新年のごあいさつ



会長  
小野幸親

会員の皆さまお変わりございませんでしょうか。心からコロナお見舞い申し上げます。令和二年は新型コロナウイルスによってあらゆる会合が中止となりました。唯一開催できたのが「第9回関西演芸しゃべくり話芸大賞」でした。昨年のグランプリ受賞者のミルクボーイさんがM-1で優勝され、一躍ビッグスターになりました。You tubeのアクセスも200万回を超えています。新年度が始まり、開催が危ぶまれていましたが、あらゆる出番がなくなっている芸人の方達になんとか舞台を作らなければと

の想いで、実施に向けてスタッフ会議などで熱く議論が交わされ、エントリー受付が始まったのです。コロナ禍の中、無観客という最悪の事態も想定しながらも、有難いことにイエスシアターの田仲社長様の絶大なご協力によって、予選からソーシャルディスタンスを配慮できる広い会場で実施できる運びとなりました。178組の応募。2日間にわたり12時間の審査。10組が選ばれ決勝大会となりました。結果はご覧のとおりです。厳重なるコロナ対策でクラスターも発生させず、スタッフのご協力に感謝しております。笑学のワークショップや勉強会など新年度にはコロナ終息を願い、皆さまと共に笑いはじける協議会にたく精一杯気張ってまいります。NHK朝の連続ドラマ「おちよやん」が始まっています。演芸の街、道頓堀を中心とした泣き笑いのドラマです。「負けへんでっ！」大阪の人情と心意気を新年度もお願いいたしますね。



専務理事  
中井政嗣



NPO法人関西演芸推進協議会 会報誌

# 笑ライヴ 第29号

walive

「笑ライブ」とは…

「笑」、「商」、SHOW(見せる)=LIVEという意味と、「WA」の意味する平和の「和」、みんなで手を繋ぐ「輪」の思いから名称にしました。

2020年12月

【発行】

NPO法人関西演芸推進協議会 編集部  
〈事務局〉  
大阪市浪速区湊町2-2-45  
オンテックス難波ビル7F  
(千房株式会社内)  
TEL.06-6633-1430  
FAX.06-6633-1435  
http://www.walive.org  
info@walive.org

## INFOMATION

いつも当協議会へのご理解、ご協力をいただき、会員の皆さまには厚く御礼申し上げます。今年は予測もなかったコロナ禍により、活動そのものができず、当会報誌も昨年2月の発行から、少し月日が経ってしまいました。

但し、「第9回関西演芸しゃべくり大賞」については、観客数を減らしてではありましたが、対策を万全にして、無事に開催することができました。このような状況の中で皆様にご協力いただけたこと、お客様が観戦にきてくださったことに感謝しております。早く普段通りの日常に戻ることを願いつつ、これからも「関西の『演芸文化・伝統文化』継承のための活動」をサポートしてまいりたいと思います。どうぞ皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

## CONTENTS

- ☆「第9回関西演芸しゃべくり話芸大賞」開催 ……2頁
- ☆「第9回関西演芸しゃべくり話芸大賞」グランプリ受賞「ラフ次元」のコメント紹介
- ☆「第9回関西演芸しゃべくり話芸大賞」予選審査員にお話を伺いました ……3頁
- ☆新年のごあいさつ
- ☆会員紹介コーナー
- ☆「笑学」のご案内 他 ……4頁

## 会員紹介コーナー



株式会社大阪共立  
代表取締役社長  
鈴木 優

### 関西演芸推進協議会に寄せて

「弊社・大阪共立は関西中心に舞台・テレビ・屋外での照明・音響・映像などに携わっています。今年は一連のコロナ・パンデミックで演芸界も弊社の仕事も大打撃を受けました。そんな中、前年のミルクボーイに続けと「関西演芸しゃべくり話芸大賞」が熱戦を繰り広げ、お笑い大好き人間の私も例年通り予選・決勝と参加しました。痛感したのは「やっぱりナマは最高！」と云う事です。中止や延期せずに決行した関係者の皆さんに敬意を表します。思えば昨今自粛や出不精癖で大阪の文楽も京都の歌舞伎もお客さんが激減しています。よき観客を育てるのも当会の目的なので微力ながら私も仲間と「生の演芸」を応援し続けたいと思います。」

## Information



### 漫才のワークショップでボケとツッコミ体感!

いつも「コミュニケーションってどういうことだと思う?」という問いかけからスタートする笑学ワークショップ。子ども達は一生懸命に考え、自分なりの答えを発表してくれます。会話のキャッチボールの楽しさは、プロの漫才を生で見て体感。目をキラキラさせ、大笑いをしながらたくさんのお話を吸収してくれています。そして、次は自分が漫才にチャレンジしてみる!毎回ドキドキワクワクを大切に、あっと言う間の45分です。自分の感情を感じ、言葉や体を使って表現する。自分の考えをしっかりと相手に伝える。そして相手を思いやり、笑いを会話に取り入れていくことの大切さを知る。漫才という演芸だからこそ共有できる楽しい時間が、子ども達の心を動かしていきます。リアルなコミュニケーションが制限された2020年。こんな時だからこそ、ユーモアと笑顔で関わることを伝える『笑学』を早く届けに行きたいなあ〜と願っています。



笑学ワークショップの様子

主催：NPO法人関西演芸推進協議会  
協力：相互タクシー(株)、(株)小学館集英社プロダクション、千房(株)  
特別協力：大光電機(株)、前田葉子様  
対象：大阪府下の小学校(募集中※応募校多数の場合は抽選にて決定)

## 会員募集中!!

関西の上質な演芸文化のために一緒に演芸を応援しませんか?

### 上方演芸の文化に触れ、共に育む活動と一緒にしませんか…

関西演芸推進協議会では、関西の演芸を盛り上げ、若手芸人の活躍を支援し、演芸の伝統を守り次世代へと継承していくために様々な活動をしていきたいと思っています。

公式ウェブサイト <http://www.walive.org>

関西演芸推進協議会

検索



## 編集後記

みなさま、お変わりありませんか?いえ、皆様にとってはそれぞれに変化があったことと思います。この協議会を含め、人との繋がりほど有難いものはないな〜と感じます。先月末に終了した朝の連続ドラマ小説「エール」では、戦前から終戦、1964東京五輪までの日本の劇的な復興を背景に歌の力が人の心をつなぐ大切なエールが聴こえてきました。先人によって伝えられるもの、これからの時代を構築していく新しい未来を生きるパワー。いろんなことに思いを馳せる今日この頃です。(編集部・廣田)

## 道頓堀リバーフェスティバル「第9回関西演芸しゃべくり話芸大賞」 「ラフ次元」がグランプリ受賞!!

続きは次項で  
ご紹介しています▶



# 道頓堀リバーフェスティバル「第9回関西演芸しゃべくり話芸大賞」開催

予選

2020年9月26日(土)・27日(日)  
於YES THEATER

優勝決定戦

2020年10月17日(土)  
於YES THEATER



グランプリ  
ラフ次元



準グランプリ  
丸亀じゃんご



恒例の出演順を決める開会式のセレモニー

2020年10月17日(土)、YES THEATERにて「第9回関西演芸しゃべくり話芸大賞」優勝決定戦が開催されました。今年は予想もしていなかった4月の緊急事態宣言の発令により、直前まで開催できるかが心配でしたが、9月26日(土)、27日(日)に無事に予選開催。178組のエントリーから10組が激戦を勝ち抜き決戦へと進みました。予選、優勝決定戦ともに、開催にあたっては細心の注意と感染防止策の徹底など、準備もいつも以上に大変でした。しかし皆様のご協力と、ご観戦くださったお客様のおかげで感慨深い賞レースとなりました。

結果は、グランプリを「ラフ次元」が受賞。過去2回は準グランプリであったことから頂点に立った喜びは相当大きかったと思います。連鎖的につながる話芸や例年通りの衣装も印象に残りました。昨年のミルクボーイに続いて、次なる舞台での活躍も期待したいと思います。

準グランプリは「丸亀じゃんご」。安定感のあるネタと演技が笑いを誘いました。協議会が9年に亘り続けてきた今大会。この舞台から関西を代表する話芸大賞となるよう、また全国で活躍する芸人が育ってくれることを期待して、ますます盛り上げていきたいです。

今年は世界的な苦難に襲われましたが、今後も人の心を豊かにできるような「関西演芸しゃべくり話芸大賞」の運営を続けていきたいです。ご来場いただきました皆さまと、ご協力、ご支援くださいました皆さまにあらためてお礼申し上げます。

## 惜しくも受賞を逃した8組の決勝進出者



## 第9回関西演芸しゃべくり話芸大賞 グランプリ受賞 「ラフ次元」からコメントが届きました!!

去年一昨年と準グランプリ。二年連続で非常に悔しい思いをしました。三度目の正直でやっと優勝できたときは本当に嬉しかったです。ラフ次元として初めての漫才タイトル。十四年かかってやっといただけました。発表のときはただただ嬉しくて、実感がないうま舞台から楽屋へ戻りました。その日の家でのお酒はとて美味しく、非常に感慨深かったです。家族もお祝いしてくれて忘れられない一日となりました。先輩や後輩にもおめでとうの連絡があり「これが賞を獲得ということか」と感じたことを今でもまだ覚えています。これからも劇場やメディアで漫才をして活躍できるよう邁進したいと思います。ちなみに去年のチャンピオンがミルクボーイさん。関西演芸しゃべくり話芸大賞で優勝されたのちに日本一の漫才師とられました。我々ラフ次元も続けるようにがんばります。これからも応援よろしく願いいたします。初めての賞を本当にありがとうございました!



## 第9回関西演芸しゃべくり話芸大賞 予選審査員のお二人にお話を伺いました



イラストレーター  
千秋育子

第9回「関西演芸しゃべくり話芸大賞」の予選の審査員をさせていただきました。この大会は、参加資格の条件範囲が広く、プロアマ問わず、子供からシニアの方までいろんな方がいて、その熱意と面白さのバランスが哲学的に感じることもありました。この人はなぜにこれをやっているのだろうか?など。ただ、人生を賭けた本気の方がほとんどなので、一般の方が想像しているよりもレベルが高いと思いますし、長時間審査をしても、かなり笑って楽しめました。物づくりにしろ何でもそうですが、完成したものをあれこれというのは簡単で、ご本人達は一生懸命考えて練習してブラッシュアップしているかと思うと、見る側も一生懸命になり、大変勉強になります。上質な正統派しゃべくりのほうが、安心して見れますが、一体何のこっちょと訳がわからないけど、なんか面白いと笑ってしまうような話芸も興味深いものです。決勝に進むような組であっても審査員によって好みに分かれるくらいで、参加者全員のしゃべくり話芸が、多種多様な笑いの文化だと思し、それを継承していくことに、とても意義があると思います。

こころからの笑いは、発信と受信の両方の幸せに繋がる。そう実感し、大事な大会の一つだと思いました。

(千秋さまには予選・優勝決定戦の舞台イラストをデザインいただきました)



産経新聞社  
メディア営業局  
企画開発部  
小林 桃果

この度、第9回関西演芸しゃべくり話芸大賞の予選審査員を務めさせていただきました。お話をいただいた際は、自分なんかにお笑いの評価ができるのかと不安な気持ちもありましたが、お笑いが大好きな私にとってこんな貴重な経験はないと思い、引き受けました。予選会で約178組の皆さんのネタを見せていただき感じたのは、お笑いのパワーです。決勝に進まれた10組の皆さんや普段劇場で活躍されている芸人の方々は、やはりとにかく面白くて審査には非常に悩まされました。そんな中プロ・アマチュア関係なく、皆さんから感じられたのが「誰かを笑わせたい」という気持ちです。この部分が見えたとき、お笑いをしている皆さんのことを心からかっこいいと思いました。

今回優勝されたラフ次元さんはやはり圧巻の面白さでした。去年一昨年と二年連続準優勝の中、ついに今年念願の優勝を勝ち取ったとのことでその姿には心を打たれました。

ラフ次元さん以外にも準優勝の丸亀じゃんごさん、決勝に進まれた10組の皆さんや惜しくも予選落ちしてしまった芸人さんまで、たくさんの面白い芸人さんを知ることが出来ました。この中から未来のお笑いスターが生まれると思うと非常に楽しみです!ありがとうございました。